

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和4年度 第1回佐渡市デジタル化推進検討懇談会
開催日時	令和4年7月27日 (水) 10:00~12:00
場所	金井コミュニティセンター 大会議室
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 市長あいさつ 3 委員自己紹介及び事務局紹介 4 座長の互選 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 佐渡市のデジタル化推進について (市長との意見交換) 2) 佐渡市デジタル政策推進計画について 3) 令和4年度のスケジュール (案) について 4) その他 6 閉会
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>《デジタル化推進検討懇談委員》 (10名)</p> <p>《市役所》 (7名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡市長 渡辺 竜五 ・佐渡市副市長/CIO 伊貝 秀一 ・佐渡市総務部長 中川 宏 ・佐渡市総務部総務課デジタル政策主幹 中川 裕 <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室長 椎 俊介 <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室デジタル推進係長 桃原 里沙 <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室デジタル推進係主事 長谷川 博也 <li style="padding-left: 2em;">総務課デジタル政策室情報管理係長 海老名 秀樹
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	2人

会議の概要（発言の要旨）

発言者	議題・発言・結果等
椎室長	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ (渡辺市長よりあいさつ)</p> <p>自己紹介に先立ち、当懇談会の目的について意識共有させていただきたい。</p> <p>資料にある「佐渡市デジタル化構想・計画」とは、今年度から来年度にかけて作り上げていく今後の佐渡市の大きな構想・計画であり、この構想・計画を作るために委員の皆さまよりサポートいただくということが当懇談会の目的である。</p> <p>そのために、皆さまの専門的な知見や市民目線からご意見・ご指摘等いただければと思う。</p>
座長	<p>3 委員自己紹介および事務局紹介</p> <p>4 座長の互選 (令和4～5年度の座長の互選・決定、座長の指名による副座長の指名・決定)</p> <p>当懇談会については普通の会議にはしたくないと思っている。普通の会議をしていてもなかなかよいアイデアは出てこない。皆さま、色々なバックグラウンドがあるかと思うのでそれを活かしていただき、デジタルから遠い方からも色々な観点から発言しやすいような場を作りたい。</p> <p>議題に移る。</p> <p>委員の皆さまには事前に資料送付されているが、「令和4年度施政方針」について、市長より改めて6つの柱についてお話いただき、その後、皆さまとディスカッションさせていただきたい。</p>
座長	<p>5 議題</p> <p>1) 佐渡市デジタル化推進について（意見交換） (渡辺市長より「令和4年度施政方針」について説明)</p> <p>せっかくの機会であるので、委員の皆さま方より一言ずついただけたらと思う。もし、その中でデジタル化と関連して何かしらご意見をお持ちであれば、その点にも触れていただきたい。</p>
A委員	<p>A委員、いかがか。</p> <p>率直に感動した。</p> <p>子育てや介護、島における生活の仕方をお話いただき、佐渡での子育て政策など非常に素晴らしいが、反面難しい点もあり、私自身が感じたことを少しずつでも市民の立場からお伝えできたらと感じた。</p>
B委員	<p>続いてB委員、いかがか。</p> <p>佐渡市は100年後にどのような形になっていたいのかなということを1度お聞きしたかった。</p> <p>また、先ほどもおっしゃっていたが、佐渡の方が東京へ出ることは個人的には非常によいことだと思っており、そこで色々な刺激を受けて帰って来ていただきたいと思って</p>

市長	<p>いる。帰ってくる材料としてどのような魅力を作ろうとしているのか。</p> <p>それ以外では、子ども世代からもっとITに携わっていただいて、そういった人材が1度は佐渡を出てもちゃんと戻って来るような形が作れたらよいと思っている。</p> <p>A委員には是非思いを伝えていただきたい。</p> <p>子育てにおける今の課題は、例えば相談する場所であるとか、日中遊べる場所であるとか、そういうところがないということが挙げられ、佐和田の議場を本庁へ移転するため、そこを読み聞かせの場所にするだとか、保健師に色々な相談ができる場所にするだとか、保護者同士が集まって色々な悩み事を相談し合えて、その間、子どもが遊んでいられるようなスペースにするだとか、そのような拠点も作ろうと思っているので、課題等どんどん挙げていただきたい。</p> <p>もう1点、100年後の世界については想像ができない。</p> <p>ただし、少なくとも言えることは、人口を3万人台に留めないと経済圏が駄目になる。日本の人口は60～80年で半分になるという統計が出ており間違いのないと思う。その時に、日本はインフラから何から機能不全になる。だから、そこをこれからどのようにしていくのかについては行政マンとしてかなり不安がある。だからこそ、私は100年後の佐渡は自律分散型の社会にしたいと思っている。</p> <p>エネルギーも食も佐渡で自立できると、今回のウクライナのようなことがあっても佐渡は食に困らない。それ以外では、エネルギーさえ自前で生産できれば困らないし簡単に値上がりもしない。残すは働く場所であるが、これだけは佐渡だけではどうしようもない。今、中国に何故あれだけの権力があるのかということ、外に頼らない自前の経済だからである。10億人の内部経済である。</p> <p>そういうことなので、100年後のことは分からないが私自身は自律分散化の社会でエネルギーが自立し、生活が自立し、文化が継承できる島を目指すべきだと思っている。人が住むということはそういうことではないかと思っている。</p> <p>それを是非今から作っていきたいという思いである。</p>
座長	<p>これから先の100年となるとなかなか想像がつかないが、100年前と比較したら今は全然違う社会である。まさかペーパーレスで会議ができるとは思ってもいなかったのではないか。</p> <p>続いて、C委員より願います。</p>
C委員	<p>雇用において、若い人が活躍できる社会を作るという点が自分自身にも当てはまり胸が熱くなった。</p> <p>それから、市長とCIOがタブレットを手に行っているところが非常に新鮮である。デジタル化について、目に見えて何かが変わることがいちばん伝わりやすいと思うので、市役所内部でも何か変わることがあるのかなと気になった部分である。</p>
市長	<p>かなり変わっている。外部との会議においても、委員さんが了承していただければタブレットをお渡ししている。</p> <p>とにかく私は、紙を束ねてホッチキスで留めるだとか、紙をコピーして製本するだとか、糊を使うだとかは耐えられない。職員には、「もうそんなことはやめてくれ」と言っている。「一体時給はいくらなのか」と。</p> <p>先ほど働き方のお話をしたが、時給に見合った仕事をすればもっともっと効率的に仕事ができるのではないかと考えていて、最初にやめさせたのは給与明細である。民間企</p>

業では明細などデータで送っている。何故袋とじのような何10円もする分厚い明細を全職員に配っているのかと。

また、会議については私へのレビュー資料については「紙を一切使用するな」と指示している。職員同士の会議のペーパーレスがどの程度普及しているのかは分からないが、庁議についてもペーパーレスでタブレットである。

もう1点、オンライン会議が可能になったので、支所や教育委員会からは、「わざわざCO2を排出して本庁まで来るな」と指示している。会議も本庁以外はすべてオンラインである。

私自身も「市長がタブレットである」という姿勢を見せることによって、部長・課長を率先垂範している。そこから先、部長・課長がどの程度率先垂範しているのかについては報告がないが、私の周辺は徹底している。

理解した。

懇談会もオンライン開催となるのか。

通知的なものはオンラインでもよいが、意見交換はフェイスtoフェイスがよいと考えている。

そこは、オンラインとリアルの使い分けか。

行政内部であればオンラインでもよいが、こういう懇談会については微妙なニュアンスや顔を覗くことも大事だと思うのでフェイスtoフェイスでなければならないと思っている。

それでは、続いてD委員より願います。

昨年度、文科省のGIGAスクール構想によって、学校さんにいきなりタブレットとネットワークが導入されたが、そこで感じたのは、教育のバックボーンが全く変わってくる中で本当に関係者の皆さんが追従できるのかということである。

すごく思ったことが、子どもたち1人1人がタブレットを持っているが、もしかしたら学校へ行くことが苦手な子どももその中に存在している訳であるが、通常の使い方ではなくて、例えばその子どもたちに興味があればタブレットを使って皆が受けている授業に自宅からでも参加できないかであるとか、1つのインフラが入ることによって色々な膨らみで物事が考えられるのではないかとこのころに興味がある。

最近、インターネットに加入する方で、「テレワークによってどうしても東京に居なければならない必要がなくなり、佐渡へ帰って来た」という人がいるという声も聞いており、世の中、コロナの副作用によって悪い面だけではなく、ある面ではリモートでオフィスを構えたりだとか、テレワークで佐渡へ帰って来たりだとか、ベースが変わりつつある。

あくまでもインフラの皆さんの目に見えないところでの変化なので、それをキャッチできず、効率は悪いけど今までどおりのことをしようとしている部分を、何とか解決していきたいという気持である。

将来的には、佐渡に居ない子どもで、例えば友達とトラブルがあつてなかなか学校へ行けない子どもがVRのゴーグルを装着すると、佐渡の教室で生徒・児童の数は少ないが和気あいあいとした中で授業を受けつつ、たまには佐渡へ来て皆で自然の中で遊んだりということができるとよいのかなと思う。

そのためのインフラづくりに協力できればと考えている。

C委員

座長

市長

座長

市長

座長

D委員

市長

教育委員会のその課題についても聞いているが、それ以外のデジタル化についても現状認識が大事で、必要は発明の母である。

だから、デジタルにせよ何にせよ必要だと思わないと動かない。学校現場によっては、先生によってはこれを必要だと思っていないのではないかと知っている。要は「上から言われたからやっている」のではないかと感じてしまう。色々な話を聞いていると。だから、活用の方法についてもせっかく専門家が力を貸してくださっているにも関わらず、内容は初心者以下のようなものばかりである。初心者以下ということは勉強していないということである。「一定程度の勉強はしろ」という話である。興味がないと逆に覚えられないのである。

学校においてフェイスtoフェイスが苦手な子どもへの対応について、今ほどおっしゃられたように活用する方法もあるが、一方で、私自身の考え方では、学校というものは嫌なことに対しても距離感の取り方を学んでいく場所でもある。それはフェイスtoフェイスでなければならない。

よって、デジタル化の世界と教育の世界はすごく難しいとされていて、嫌なものは嫌だという子どもの思いも認めてあげることもすごく大事だが、やはり、そういう子どもたちがどのようにして人と人との距離感を掴めるのか、学年が上がれば上がるほど、嫌な人と居てもどうにか自分をコントロールできることを学ぶことで、社会人になって嫌なことがあっても我慢できるということもある。そういうところは様々な角度から考えていかなければならないのであろうと。それをこれから、学校現場や我々も含めてももっと考えていかなければならないと、今のお話しかからも感じている。

座長

E委員、いかがか。

E委員

先ほど市長がおっしゃっていた、外部の企業さんと市内の企業のマッチングというところに非常に興味があり、一昨年頃からそうした外部の企業さんが入って来ていると思うが、うまく地元のお仕事ができているのかについても興味がある。

今回、たまたま外部の企業さんと弊社と一緒にタグを組んでできることがあったので、他の外部の企業さんも同じような形でビジネスマッチングできていけばさらに口コミで発信できていくのかなと思うことと、やはり若者が佐渡へ帰って来ない理由として、仕事がないという理由があると思うが、一方で、民間企業では人がいないという実態がある。

もちろん、雇用の形態であったり労使の問題であったり、色々働き方を変えていくことで市外の人に求人募集した時に選んでもらえるようになると思うが、労働条件が非常に悪いというイメージがあると思うので、そのあたりについて佐渡市さんからも「こうすると人が集まる」というようなセミナーを開催していただいているが、実際、その点が前向きに改善されているのかということについて、社労士である委員もいらっしゃるのでアドバイスいただきながら、市外から見ても魅力的な企業に映るよう進めていただければと思う。

座長

副座長より一言お願いする。

副座長

市長とはいつも連絡を取らせていただいているので考え方等にズレはないと思うが、実際、最近は佐渡市の企業誘致に非常に時間を割いているという実態もあり、その目線から、「小さなデジタル化」と「大きなデジタル化」に分けて意見を述べさせていただく。

「小さなデジタル化」というのは、例えば、「地元の色々な社会的な課題を解決します」ということは民間企業がメインになって担うものだと思っており、そのために、企業誘致担当としては佐渡へ進出して来ているITベンチャー企業が地元企業と一緒にあってDX化プロジェクトをどんどん巻き起こしていくことが大事だと思っているし、企業誘致には関わらせてもらっているだけで30社以上あるが、地元企業が一緒にならないと地元の課題は解決できないと思っている。外から来て、「これがソリューションである」「これが解決策である」と言われてもなかなか難しい。

そういう意味でいうと、先ほどE委員がおっしゃった株式会社YAZさんという会社は市内のDX化に取り組むと聞いているし、例えば、河原田本町のインキュベーションセンターに入って来た株式会社TOMODYという会社があるが、実はその社長はプッシュ通知というものの特許を取った人間で、そういうすごいエンジニアが作っているような企業が実際に佐渡へ来て、佐渡観光交流機構と組んで市内の映像配信サービスの仕組みづくりをしている。また、エヌ次元株式会社という会社がやはり河原田のインキュベーションセンターに入ったが、そこは当社と一緒に学生向けのアプリ開発講座を10月から開始しようと準備を進めており、それもただ実施するだけではなく、すべて動画講座としてUdemyにアップロードし、市内の人はすべて無料で、最初は学生から公開する想定で準備を進めている。

そういったように、市外から来る色々な企業と市内の企業が一緒になって「小さなDX化」をコツコツと進めていくということを引き続き佐渡市さんと一緒になって支援できれば思っている。

もう1つは「大きなデジタル化」ということで、非常に懸念でもあるがデジタルガバメントクラウドへの移行について、非常に大変であろうなという思いである。

これを市内のベンダーさんにもお願いしても、極論を言えば無理だと思っており、既存のベンダーさんにお力をお借りしなければならないが、可能であれば、佐渡へ進出して来ているベンダーさんが、その大きな既存ベンダーさんの下で業務を学べるような体制を構築していただけると佐渡へ進出していただけるITベンダーが増えてくるし、定着するし、佐渡の若者が働く職場も増える。

そして、先ほど市長もおっしゃったが、何より私が重視している、大きなお金が出来るだけ市外へ流出しないように市内循環していけばと思っている。

本日、オンラインで繋がっている市外からご参加の委員にもご意見を伺いたい。F委員にお願いする。

今回の佐渡の件に関しては非常に思い入れを持っている。

まず、市長が先ほどおっしゃっていたフェイスtoフェイスの意味が非常に大事で、デジタル化というものは距離や時間を短縮するだけであって、实体经济においてはサポートでしかないということだと思う。したがって、デジタル化によって稼いだ時間や距離を本当に豊かな生活のために向けるということが課題を解決していくことの意味だと思っているので、そういった意味では、先ほど副座長がおっしゃられたとおり、外部の企業が来て、「これがソリューションです」ということが最もよくないと思っている。プロダクトアウトでただモノを持ってきて「これを導入しましょう」ではない。

それは何を言っているのかというと、総合的に色々な課題を解決していくということを全体で進めていくことが大事だと思っていて、そのお手伝い的手段としてデジタル化

座長

F委員

があるのであって、最も大事なことは議論することだと思っている。

なので、今回の施政方針の中で最初に書いてあったことで、「市民の皆さまとお話をする」ということがいちばん大事で、私がいつもとにかくテーマとしている、共感するというシンパシーではなく、エンパシーというアイデンティティになるということをベースに、ソリューションを提供するプロダクトアウトではなく、マーケットインでどういことができるかということをしていきたいと思っている。

1つだけ教育の例示で言うと、教育においてデジタルとアナログをマッチさせるために何が必要かという点、私自身は生徒同士がよく話をするのが大事であると思っている。何故かと言うと、先生方もこれからの時代は答えのない時代で、これまでは受験的な教育をなさってきたところでいきなり答えがないものに対する手段をどのように教えたらよいのか分からないと思う。

生徒と先生と一緒に進めていく。もっと言えば、生徒同士と一緒に考えていくというところにフェイスtoフェイスの意味があると思っているので、そういった時にデジタル化というものをどのように活かしていくのかというところを、ハイブリッドで進めていけたらということを一例として思っている。

G委員、お願いします。

市長の施政方針等をお伺いして、デジタル化という話が挙がっていくときに懸念点として考えられることが、「それが目的になってしまう」という失敗事例を私も多く見てきた。なので、施政方針としてしっかりと根底にあるもの、市長にお話ししていただいたものがしっかりとある限りはそのようなことにはならないという期待感を持っている。

対外的なところを見ていったときに、やはりこれからデジタル化にせよ何にせよ気になるキーワードは「おもてなし力」ではないかと私は考えている。

市民サービスに関してもそうであるが、「佐渡に帰ってきたい」「佐渡が選ばれる」という観点で考えたときに、おもてなし力のようなものが磨かれていくと、より佐渡が選ばれていくという形になるのではないかと、私自身、外部から色々な方たちをお招きして佐渡をご案内していく中で非常に感じているところである。

それから、デジタル化による生産性の向上という観点で考えると、私自身、佐渡市内で雇用をして色々な事業者さんを見ている中で、賃金が低いことと生産性がイコールとなってしまうことが非常に気になる場所であった。これが、実際に佐渡へ外部からどんどん企業が入って来て雇用環境を整えていく、また、魅力的な職場というものをどんどん作っていくことを考えたときに、経営者の視点として生産性という部分は見過ごせないで、そういった部分の意識改革を特に若い方を中心として進めていくこともまずは必要なのかなと、私自身は課題感として感じているところである。

それでは、最後にH委員よりお願いします。

本日の懇談会であるが、最近、デジタル化ということでデジタル庁が発足する以前の3～4年前から徐々に行政の中でも言われてきたことであり、ちょうど今、経済安全保障のような形で次のデジタル化の流れができてくるのではないかと思っている。

これから国会など色々なところでも経済安全保障に関してしっかりと対応すべく、安心・安全なデータ流通についても新しい技術を使ってしっかりと守っていくという話をしているので、市長がおっしゃった、脱炭素・サーキュラーエコノミーであるとかカー

座長
G委員

座長
H委員

座長
市長

ポニュートラルなど、色々と進めなければならないことがあるが、それらすべてに安全なインフラを用意しなければならないので、高度化するインフラの中でデジタル化の社会をどう作るのかということについて、恐らく次のフェーズはこの1~2年で変わってくると思うので、難しい議論になることもあるかもしれないが、どんどん外部の意見を入れて、どういう社会を作るのか、どういう未来を作るのかという観点からのFit&Gapの中で、技術的な議論を埋めていくことがよいのかなと思う。

それでは、市長に願います。

地元企業と雇用の話があったと思うが、雇用については生産性と賃金の問題があると思っている。要は企業の利益率を変えていかなければならない。そういう意味で、外部からの新しい若い方の感覚の起業と繋がられないかと思っている。

そこで市が最大に応援できるヒントは、市外からの転換である。市外から入っているものは佐渡が島であるお陰で、何がどれだけ入っているのかを概ね把握することができる。これを市内で生産すると市内コストや売り上げも見えてくる。

そうすると、それを入れ替えることによって市外へ出ていたお金が市内に残ることとなり、行政にとっても非常にありがたい形になる。こういったことも含め、市外で勝負するだけでなく、もっともっと市内需要に合うものを転換していくヒントもあるのかなと思う。

もう1点雇用の問題について、生産性と賃金が低いことは否めないと思う。ただ、賃金が低い分生活にお金がかからない仕組みも作ることができる。今、古い民家を佐渡市で借りて若者住宅にしてもよいと考えている。そうすると、東京で8~9千万円という住宅を買う人生生涯賃金が不要になる。子育てにもお金がかからず保育園にもどんどん入れるということになれば、仕事に行くこともできる。可処分所得を考えなければならない。そういう点も踏まえ、移住政策も含めて全体で考えてPRしたいと思っている。

その中で小さなデジタル化の問題もあるが、先ほども申し上げたようにビジネスを市内で循環させたいということは強く思っている。その課題を企業の皆さまがどんどん解決して、初期投資が必要であれば様々な補助金も使えると思う。

現状を把握し課題を見つけ、その課題解決の仕組みを民間企業に進めていただきたいと思っている。そのために今私が職員に伝えていることは、出来る限り業務を民間に移行できるように切り分けるということである。「小さな役所」と「大きな民を」どのようにして作っていくのかということへのチャレンジは、東京のようににはできないが、佐渡として考えていかなければならないと思っている。

市の業務をできる限り民へ移行していきたい。だから、「政策と市民の安全・安心は別」という言い方をしている。市民の安全・安心は移行できないが、政策は移行できる。それを進めていきたいと思っている。

すべてに安全なネットワークなど市の職員ではできない。だから、マイナンバーカードも普及のしようがない。このあたりは、国にもっとしっかりと考えていただきたい。また、地域通貨を観光振興課においてずっと議論しているが非常に難しい。デジタルを安全に使うということは非常に大きな問題でもあるということは事実である。

最後に、おもてなし力は非常に重要で、それを考えるからデジタル化が進むのだと思う。

要は、相手のために何ができるのか、市民のために何ができるのか。観光セッションであれば、観光のために何が必要か、そこの視点をしっかりと持つことによっておもてなしができるのだと思う。安く泊めることがおもてなしではない。相手が何を求めているのか、それをどのように対応していくのか、それがおもてなしである。そこに手段としてのデジタルを使うということである。

これによって佐渡の課題をどうやって解決するのかということをしかりと考えていかなければならないと思っている。おもてなしは1つの大きな目標になると思っている。おもてなしの形を見つけることによって手段が見えてくる。その手段には世界遺産もあり文化もあるということになると思う。

委員の皆さまより、たいへん貴重なご意見に感謝申し上げます。

私はこのように思っているし、このことは皆さまにも職員にも伝えながら進めさせていただいているが、なかなか行政というものは既存の形を変えることが得意ではない。決まった形を延々と続けることは得意だが、新たな形を作ったりこれまでの形をなくしたりすることは苦手である。そこを、民間へ移行していくことによって変革するという形を目指したいと思っている。

正直に申し上げて佐渡は公の力が強すぎる。だから、民がどんどん元気になって変革を促してくれることが市民参画社会だと思っているので、そういう社会に結び付けていきたいと考えている。

座長

長時間に渡って意見交換いただき感謝申し上げます。

市長は公務のためここで退席する。

5分間休憩する。

(5分休憩)

座長

後半戦に入りたい。

議事2) 佐渡市デジタル政策推進計画についてデジタル政策室の中川主幹より説明を求める。

中川主幹

これから策定を進めていく「佐渡市デジタル化構想・計画」について、どのようにして策定していくのかについて説明する。

私どもデジタル政策室では2年間をかけて、デジタル化の実現に向けた取り組みを計画するための構想・計画を立てていきたいと考えている。

策定にあたっては佐渡市の最上位計画である「佐渡市総合計画」を実現するための手段としてのデジタル化を進めていくような計画にしたいと考えている。また、庁内に関わることであるが、「持続可能な行政運営プラン」との連携や、各種協議会や検討会・懇談会といった外部団体とも協議をしながら進めていきたいと考えており、さらに、脱炭素社会の推進、SDGs未来都市といった部分とも親和した構想計画としたいと思っている。

目的については、少子高齢化や人口減少、過疎化、医療の問題、市民・観光客の移動などの地域課題を解決し、持続可能な社会を実現していくところに積極的にデジタル技術を活用していくことで、総合計画に掲げる「子どもからお年寄りまで、誰もがいきいきと輝ける島」の実現に寄与するものである。

目標としては令和6年4月から本格的に社会実装が開始できるような状態にしたいと思っており、当懇談会のご意見というものも反映させながら計画を立案していきたいと思っている。

計画の内容については大きな3本柱を考えている。

「庁内のデジタル化」については、先ほど副座長からもお話があったとおり、ガバナメントクラウドを国も推進する方向なので、これについては確実に私たちの方で進めていく必要があると思っている。

それから、「行政事務の効率化・高度化」については、デジタル化が遅れている部分もあるので、そういった部分を効率化し、本来の業務である市民サービスの向上という点に力を入れて取り組めるようにしなければならないと思っている。

「デジタル人材の育成」に関しては、今後、佐渡市のデジタル化を推進していく職員を育成していかなければならないということで、助言等をしていきたいと思っている。

「暮らしのデジタル化」については皆さま方に関わる部分である。話題に挙がっているマイナンバーカードを活用することで、窓口業務のオンライン化・遠隔化を進めていきたいと考えている。

「健康寿命の延伸」については、お年寄りまで元気に働き続けることができるということをデジタルによって実現させるために、庁内の関係課や病院等とも連携しながら進めていきたい。

「市民への情報配信」に関しては、市報や防災情報といった色々な情報伝達について、デジタル化によってより確実にパーソナライズされた情報を提供できるような形を作っていきたいと思っている。

「産業・おもてなしのデジタル化」に関しては、交通・移動の問題というものが大きな課題であると考えており、今、交通政策課で観光客・市民の移動の新たなサービスを実現していこうと検討会も立ち上がっているが、こういったところと連携しながら、システムとしてどのような技術を活用できるのかということと一緒に考えたい。

「1次産業のデジタル化」については、農業・漁業、そして生物多様性という点も踏まえながらデジタル化を進めることでより持続可能な社会に貢献していきたいと考えている。

今後のイメージであるが、他の自治体で作成している、10年後の在りたい姿を描いたビジョンマップというものをビジュアルライゼーションしていくことを私たち主導で行っていきたいと思っている。これを、懇談会の皆さまのご意見もいただきながら「デジタルで描く将来像」について作成を進めたいと考えている。

進め方については、「庁内のデジタル化」「暮らしのデジタル化」「産業・おもてな

	<p>しのデジタル化」への取り組み内容を整理しながら、ワークショップなどを開催しながら、ある意味試行的に実践していきながら計画に反映し、令和5年度末には実行計画を立てたいと考えている。</p> <p>推進体制については、デジタル政策室で主導しながら計画を立てていくが、当懇談会からもご意見をいただきながら進めていきたい。また、これ以外にも、各種協議会や検討会、コンソーシアム等とも連携したいと考えている。さらに、外部団体である商工会や青年会議所、中小企業家同友会といったところからもご意見等いただきながら計画に反映したいと考えている。</p> <p>駆け足ではあるが、今後、本市で進める「佐渡市デジタル化構想・計画」の進め方についての説明は以上である。</p> <p>既にいくつかトピックとして挙がっているものがあるが、その他にも抜け落ちているものがあるかもしれないので、皆さまから「このような観点を大切にしながら計画づくりすべき」といったご意見があればお伺いしたい。</p> <p>2年間かけて計画を作り、その後は計画を走らせることになると思うので、この計画にどのような肉付けをしていくのかということはずごく大切になるかと思う。</p> <p>先に私から1点。</p> <p>説明の最後に、色々なステークホルダーが連携しているという図があったが、現行で佐渡市の中で進んでいるデジタル関連の政策であったりプロジェクトであったり、そういったものがまとめられていると、それぞれにどういったものが進行中であるのか、そしてそれには何が欠けているのかということと、先ほど副座長がおっしゃった「小さなデジタル化」と「大きなデジタル化」をしっかりと分けて考えていくことも大切かと思う。</p> <p>具体的にどのようなサービスが必要なのかは前者と思うが、例えば、デジタル化によってどのような島にしていきたいのか、どういう暮らし方を私たちは追及したいのかという少し大きな話との両方が計画には必要かと思う。今は細かい部分的な話でも大きな話でもどちらでも構わないと思うが、少しご意見をいただけたらと思う。</p> <p>「デジタル化といっても何だか分からない」「実感がわかない」というような話も含め、C委員いかがか。</p> <p>すぐ具体的な話となってしまうが、佐渡へ来て思ったことが、回覧板や配り物など、地域の人から毎月配ってもらっているが、個人的には紙である必要はないと思っていて、そういうかなり細かい話は、先ほどのご説明いただいた推進計画のどこに当てはまるのかなとか、そういう要望をいち市民として出した時に、どのように進められるのかなといったところが気になった。</p> <p>まだまだこれから検討という段階ではあるが、市からの情報発信についても、既にSNSやWebページにおける公開がなされているが、そういったところの統合であるとか、新たな仕組みを用いるであるとか考え方の整理が必要かと思う。</p> <p>先ほども「暮らしのデジタル化」で少し触れたが、その中に当てはまるものと思う。</p> <p>それと併せて回覧板の持つ見守りといったよい機能も補いながらデジタル化は考えていく必要があるのかもしれない。</p> <p>他にいかがか。</p>
座長	
C委員	
中川主幹	
座長	

B委員	<p>私はぼんやりとしか理解ができていなくて申し訳ないが、個人的に感じたことは、もう少し子どもに対する取り組みはどのようなものがあるのかなという部分が気になっている。やはり子どもは大事である。これから育てそのまま佐渡で頑張ってくれてもよいし、1回島を出てから戻って来て頑張ってくれてもよいし、やはり教育的なところで何かできることがあるとよいと思うことと、デジタル化は外部の企業にお願いすることが多くなるとは思うが、やはり佐渡市内の企業が頑張って作り上げて、自分たちで経済を回していくという方向性の考え方も必要なのかなと思っている。</p> <p>教育や子どもに対する部分について、一部、医療・福祉に関わる部分もあるかもしれないが、確かにその部分については抜けているところがある。今後、見直しが必要かと思うし、教育委員会が独自に進めている部分もあるかと思うので、連携しながら計画に反映させる必要があると思う。</p> <p>もう1点、地元企業に関しては、「産業・おもてなしのデジタル化」に関連してくると思うが、まだ考慮が至っていないところがあると思うので、漁業・農業以外にも盛り込んでいく部分があると考えている。</p>
座長 中川主幹	<p>漁業の具体的なテーマはどのようなものがあるのか。</p> <p>まだ具体的なテーマは決まっていない。これから検討・協議していく内容になるかと思う。</p>
座長	<p>企業の話が色々出てきたと思うが、第1次産業においても簡単にスマート農業を導入すればよいというものではないと思う。水産業を見ているとかなり人が居なくなっているという中で、例えば、佐渡から第1次産業を取り除いたら佐渡として存続が出来るのかどうかということを想像すると、結構考えてしまうところがあって、今、NTTデータさんと進めている「自然共生の未来を探求する連続ワークショップ」では第1次産業に特化しているが、面白い動きが出せるとよいと思う。</p>
中川主幹 座長	<p>おっしゃるとおり、そういったところとも連携できればと思っている。</p> <p>A委員、いかがか。</p>
A委員	<p>私は日々の生活に根ざした問題点が目の前にあって、皆さま方と考え方がかけ離れてしまうところがある。このギャップを埋められないというか、先ほど話にあった子育ての問題も学校だけでは解決できない部分があって、地域の人たちを巻き込まなければならないと思う。しかも、子どもの上には親がいるので、親を変えていくということは非常に難しい問題であるし、私も農業に携わっているが頑張る割には全然儲からない。</p> <p>私の意見はそういったところしか出てこないの、すぐには皆さまのような議論に辿り着かないところがあって、やはり一般市民の生活の在り方をよく知っていただきながら、このギャップを埋めるためには相当な労力と、すぐに動ける人材と、色々な問題があると思いながらお話を聞かせていただいていた。</p>
座長	<p>やはり、そのギャップを解消していくという子とはすごく大切である。そこが解消しきれないと、恐らく地域の課題とかけ離れたデジタル政策になってしまう。</p>
A委員	<p>そのとおりである。先ほどの回覧板の話も然りで、私の父や母の世代は回覧板を見るが、その下の世代は忙しくて見ようと思う頃には既に回覧し終えてしまっている。また、回覧板には確かに見守り機能もあり、若者と高齢者の関り合いであるとか、デジタル化の需要がある世代とない世代であるとか、そういったところを今からどのようにしていくことが佐渡にとってよいことなのか、ずっと考えてはいる。</p>

座長	<p>「子どもからお年寄りまで、誰もがいきいきと輝ける島」ということが書かれていたと思うが、言葉にするのは簡単であっても、そういう部分を丁寧に解決していくための取り組みも必要かなと思うところである。</p> <p>他にご意見等あるか。</p>
F委員	<p>今まさにおっしゃられたとおりで、本当のお困りごとが何かということとビジョンのギャップをどのように埋めるのかという時に、まずこのデジタル政策推進計画の中で課題解決を目指すのであれば、子育てや医療など、各現課においてそれぞれがテーマを掲げてみてトータルの解決を図ることがよいのではと思う。</p> <p>何が言いたいのかというと、SDGsについても17の目標があるが、1個1個を実現すれば何となくよいと思いがちだが、17の目標すべてがリンクしてサステナブルなゴールを目指すものなので、ここについても佐渡における課題が色々あって、それを1個1個議論するのではなく、トータルの解決していくことが大事で、その前に市民の皆さまが何に困っているのかを本音で発散させて収集してみるということもギャップを埋める1つの手段なのかなと思う。</p>
座長	<p>今回は懇談会という形での市民公募も含めたグループであるが、ここで語られることだけでよいのかという思いもあり、市民の課題としてデジタル化というものをもっと活発に議論するような場を作ればよいのではないかというご意見を懇談会の意見として有り得るのかなと思う。よろしくお願ひしたい。</p> <p>本日は時間が少しタイトになってしまったが、委員の皆さまにも「デジタル政策推進計画」については事前にメール配信されていると思うので、お気づきの点やご提案等あればメール等で声をお寄せいただきたい。</p> <p>それでは、議題3) 令和4年度のスケジュール(案)について椎室長より説明を求める。</p>
椎室長	<p>今年度のスケジュール(案)については事前に資料としてお渡ししておらず、本日初めて説明させていただく内容である。</p> <p>懇談会の開催イメージについて、次回の懇談会は10月の半ば頃を予定したいと考えており、本日の意見交換の内容をベースに色々な仮説を立てたり議論していただいたりということを考えている。また、8月に市民アンケートの実施を予定しているが、我々もデジタル化という課題に対して何の情報もデータも持ちあわせていないため、こうしたアンケートを実施し、その結果も皆さまと共有しながらまた意見交換させていただきたいと考えている。</p> <p>それ以降については、予定も変わってくるかもしれないが12月頃に第3回を考えている。これは、10月～1月にかけて庁内においてもどのような構想・計画を立てるのかについて、各セクションを交えて施策や総合計画における課題等を解決するための手段としてのデジタル化について考えたいと思っており、その内容などを皆さまとシェアさせていただきながらご意見をいただきたいと思っているし、或いは、そういった庁内のワークショップに皆さまにご参加いただいてもよいのではないかという、柔軟な在り方も考えているところである。</p> <p>最終的には、2～3月頃に、まとめ上げていくといったところで第4回目の開催を想定している。時期的なイメージについては以上である。</p> <p>それから、今ほどA委員から、ビジョンと実態とのギャップを埋めたいというご意見</p>

	<p>があったが、こういうご意見については私どもについても是非ともいただきたいご意見であったので、A委員はじめ委員の皆さま方からいただきたいご意見であるし、そのギャップを埋めていくことが我々の仕事であると理解しているので、今後も忌憚のないご意見をいただければと思う。</p> <p>また、委員の皆さまにつきましても、本日色々なご意見をいただいたように、それぞれに得意分野をお持ちのことと思うので、次回以降の懇談会において、皆さま方にインプットの役割を担っていただくということも考えていきたいのでよろしくお願いしたい。</p> <p>スケジュールについては、このような形を想定している。</p>
座長	<p>大体のスケジュール感について掴めたことと思う。今年度については、ビジョンをまとめ上げていくというところに注力するということである。</p>
椎室長	<p>それでは、最後に、次回の日程について事務局より説明を求める。</p> <p>次回の日程について、事務局より10月12日(水)または14日(金)といったあたりを提案したいと思う。現時点において皆さま方にご予定がないようであればスケジュールングさせていただきたい。</p>
座長	<p>事務局より日程について提案があったが、明らかに今の日程の中でご予定があるということでなければ、そのあたりで日程調整したい。</p>
椎室長	<p>一旦は今の提案を候補とさせていただいて、また早い時期に連絡させていただく。</p>
座長	<p>それでは、そろそろ閉会にしたいと思うが、副座長と座長から一言ずつ申し上げたい。</p>
副座長	<p>よいキックオフミーティングであったし、よいチーム構成であると思う。専門家の皆さまはそれぞれに知見をお持ちであると思うが、市民公募の皆さまのご意見については、まさにおっしゃるとおりだなという思いで聞かせていただいた。</p> <p>大筋・本筋のところで皆さま地に足を着けながら「DX化・デジタル化は目的ではなくて手段である」というところを、皆さま共有されている方がお集まりということで非常に嬉しく思う。</p> <p>今後ともよろしくお願いする。</p>
座長	<p>今日は本当にたくさんのご意見を出していただいた。また、これを皆さまにフィードバックさせていただきながら議論を積み重ねることが出来たらよいと思うが、イメージがはっきりと掴めないというようなご意見もあったかと思うが、私自身もそういう思いを持っていて、私たちがそうであれば市民の皆さまの多くもそのような感覚を持たれると思う。</p> <p>懇談会については、年間4回程度を想定しているが、それ以外にもフォーラムやワークショップを開催しながら市民の皆さまとの情報共有や、声を拾い上げていくといった場づくりにも繋げていくことが出来れば、佐渡全体で、デジタル化についての問題意識が広がればよいと思っている。</p> <p>個人的には市民参加の研究者なので、自分としても尽力できたらよいと思っているし、そういったところこの懇談会を連携させながら進めていけたらと思う。</p> <p>つたない司会であったが、また次回、よろしくお願い申し上げます。</p>
椎室長 伊貝副市長/CIO	<p>6 閉会</p> <p>それでは、佐渡市副市長/CIOより閉会の言葉を申し上げます。</p> <p>本日の懇談会についてお礼申し上げます。</p>

初回ではあったが、内容的には非常に濃いものであったと感じている。

今後2年間、このメンバーで佐渡市のデジタル化についてよい議論をしていただけるようお願い申し上げます。

今後、市民・庁内それぞれに色々なご意見を吸い上げる中で具体的なお話も出てくるものと思っている。そうしたものも考えながら、より大きな視点で考えることもしながら、より有意義な議論をお願いしたい。